

初等中等教職員国際交流事業

令和3年度 海外教職員招へいプログラム概要 (中国・韓国・タイ・インド)

1. 背景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、日本と中国・韓国・タイ・インドの教職員間の交流を深め、両国の相互理解と友好の促進に資するため、文部科学省の委託を受け、令和3年度には、新時代の教育のための国際協働プログラム 初等中等教職員国際交流事業として各国から初等中等教育教職員を日本へ招へいするオンラインプログラムを実施しています。

2. 目的

本プログラムの目的は、未来を担う子どもたちを育む教職員同士の交流を通して、お互いの教育制度、教育事情および文化について相互理解を深め、教職員自身が主体的なチェンジメーカーとして変容していく端緒を開くことです。プログラム活動を通して、多様性への理解と尊重を育み、それを次世代へ受け継ぐこと通じて、多様な文化が尊重される平和で持続可能な社会の実現を目指します。

3. COVID-19 パンデミック以前のプログラム

「全体プログラム」と「地域受入れプログラム」で構成されていました。「全体プログラム」は、日本の初等中等教育についての講義や、東京近郊の学校訪問、文化・教育施設の見学等を行い、「地域受入れプログラム」は、参加者が日本各地の受入れ地域に滞在し（全体の参加人数に応じて複数のグループに分かれる）、各地域の特色ある教育施策や活動について学び、学校および文化・教育施設を実際に見ることで理解を深めていました。

（例）スケジュール

- 第1日 日本到着、オリエンテーション、開会式
- 第2日 日本の教育についての講義、東京近郊の学校訪問
- 第3-5日 各自治体での地域受入れプログラム
- 第6日 再集合、報告会、閉会式、歓送レセプション
- 第7日 帰国

4. COVID-19 パンデミック以降のプログラム

すべてのプログラムはオンライン（zoom を利用）に切り替えられ継続して実施してまいりました。オンライン実施に伴い、従来の対面式で不可能であったことや新たな発想に基づいた試みもおこなわれるようになっていきます。

（例）

- ・ 離島・遠隔地に焦点を当てたアウトリーチプログラムの実施
- ・ 授業を収録した動画に対する意見交換（授業研究）
- ・ 児童生徒間の交流

5. 令和3年度のプログラム

オンライン学校訪問

（概要）

- ・ 海外教職員と日本教職員ならびに児童生徒とのディスカッションが基本
- ・ 学校紹介・授業見学等に対する質疑応答・意見交換

（補足）

- ・ 双方向で高頻度のコミュニケーションを取る必要があるため、1グループあたりの海外教職員数を5名程度と少人数とした上で、2-3グループの受け入れをお願いする

- ・受け入れ側の通信環境を安定させる必要があるため、リモート配信業者が参画する（費用は ACCU が負担）
- ・半日を基本とするが、希望次第で2日間に分けての開催も可能

※いずれの場合も、逐次通訳が手配される（ACCU 負担）ので、言語の心配は不要

6. 期待されること

これまでの訪問受入れの現場においては、相互の意見交換や海外教職員による授業などが実施され、海外から日本を訪問する教職員はもとより、受入れ側にとっても国際交流の機会となっています。受入れ後の海外の学校との交流協定の締結、修学旅行の受入れ、オンラインクラス交流等、さまざまな相互交流のきっかけとなっています。

7. 令和4年度の受け入れ調書について

受け入れ希望がある場合は必要事項をご記入頂き、所定の web フォーム <https://ws.formzu.net/fgen/S65964297/> で送信くださいますようお願い申し上げます。

8. 経費

プログラムの実施に係る経費は、本プログラムの実施機関が負担いたします。詳細については、以下の実施機関までお問い合わせ下さい。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

国際教育交流部

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル

電話：03-5577-2853 FAX：03-5577-2854

E-mail：accu-exchange_ml@accu.or.jp

HP：http://www.accu.or.jp/jp/index.html